

# Wish

ユニセフ兵庫ニュース

vol.48  
2016年1月号



紛争により瓦礫（がれき）となった建物周辺で遊ぶ笑顔のパレスチナ自治区ガザの子どもたち  
写真提供：NPO法人「地球のステージ」

## CONTENTS

2-5 **EVENT FOCUS** 平和な世界を実現するために、  
私たちにできることは。  
平和講演会 / 第4回国際理解講座 / 第5回国際理解講座

6-7 **活動ファイル**  
2015年9月～12月  
8 **お知らせ**

Event Data イベントデータ

日時：8月22日(土)  
 会場：姫路文化センター  
 出演：NPO法人「地球のステージ」代表理事 桑山紀彦さん  
 同 パレスチナ自治区現地事務所スタッフ 前田那美子さん  
 共催：姫路市立白露中学校、コープこうべ第6地区、日本国際連  
 合協会兵庫県本部、兵庫県ユニセフ協会  
 参加者：420人



国内外の紛争地・被災地で医療支援活動をする心療内科医の桑山紀彦さん(右)  
 ガザ地区ラファ事務所とエルサレム事務所の駐在員として勤務する前田那美子さん(左)



Event Focus

## 第4回国際理解講座 桑山紀彦さんが綴る 「地球のステージ」 ～果てなき地平線～

国際理解講座は、兵庫県ユニセフ協会、日本国際連合協会兵庫県本部が共催し、公益信託兵庫県婦人会館ユネスコ基金の助成を受けて行っています。

公演では、ガザ50日戦争の映像と共に、傷ついた子どもたちに命の大切さ平和の大切さを伝えたいと制作した映画「ふしぎな石～ガザの空」の紹介のあと、桑山紀彦さんと前田那美子さんから、現地の心のケアを受ける子どもたちの様子が伝えられました。

Event Data イベントデータ

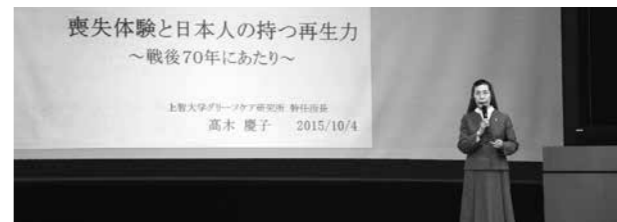
日時：10月4日(日)  
 会場：コープこうべ生活文化センター(神戸市東灘区)  
 参加者：75人



Event Focus

## 平和講演会 喪失体験と日本人の 持つ再生力 ～戦後70年にあたり～

2015年は、戦後70年、阪神淡路大震災から20年。命を思い、生きることについて高木慶子さんに、お話しいただきました。



Profile 講師プロフィール

たかき よしこ  
 高木 慶子 さん



上智大学グリーンケア研究所特任所長。「生と死を考える会全国協議会」会長。「兵庫・生と死を考える会」会長。兵庫県ユニセフ協会評議員。援助修道会会員。

最も大きな人災は戦争

私は小学校3年生の時に戦争を迎えました。私にとってはどう考えても敗戦でした。空襲を受け、街を焼き尽くす焼夷弾から逃げまどい、母に手をとられ防空壕に向かった時、「助けて」という人を見捨てて走りました。この時の罪悪感、これは一生忘れ



平和な世界を実現するために、  
 私たちにできることは。

シリアやパレスチナをはじめ、世界中で紛争やテロが起き、罪のない子どもたちまでが巻き込まれています。戦後70年という節目に兵庫県ユニセフ協会は、戦争、平和を考えるイベントを多く実施しました。平和な世界を実現するために、私たちに何ができるのでしょうか。

れません。戦争によって、多くの民衆、子どもたちが苦しみながら死んでいったのです。

価値観の喪失・混乱から再生へ

敗戦後、価値観の喪失、混乱は凄(こ)いものでした。食べるものも住むところも無く、神様と拜んできた天皇陛下が今日から人間ですと言われ、学校教育も一変しました。今まで体験したことのないことでした。

外国から見た日本は哀れな軍事国家で、もう再生は難しいだろうと言われていました。そういう私たちがだったのに、本当にみごとにそれから回復したと思います。それが日本人の持つ再生力です。私は誇りに思います。

その一方で犠牲となられた方を忘れてはいけません。天皇皇后両陛下の慰霊の訪

問をされるお姿は、犠牲になられた方々に本当に申し訳ございませんでした、現地の方々に本当に迷惑をおかけしようというお姿ですね。私は個人的に、すごく尊(と)いものを私たちに示されている様に感じています。

意識的に準備しておくことは必要なのだろうと思います。また、大家族から一人暮らしへ生活の形も変化し、不安要因が多くなっています。一期一会、お互いという場であっても、自分の命を大事にするように人の命も大事にしてほしいです。

これからの時代への備え

今まで体験したことのない、思いがけない天災、人災の多い時代に入ると考えられます。その時大切なことは共同体意識です。病気の方、お年寄り、そばにいるのが分かっているけれど一緒に逃げまじょうと声を掛けることができます。安否確認の方法を確かめておくこと。起こってからでは遅いんです。私たちは阪神大震災を体験しているのに、持ち出しを準備している人はわずか3%です。天災、人災はいつ来るかわからないからこそ、

優しく人々に寄り添う

人間は自分のことがまず第一と考える傾向がありますが、一人ひとりとは大小の悲嘆を抱えています。困っている人にさっと手を出せるような思いやりをもって、親切に生きることが大切です。他の人から優しくされることで、新たな希望や勇気が生まれ元気になれるのです。互いに励まし合い優しい心で接し、生きていきたいと思えます。

～パレスチナからのメッセージ～

ラファ事務所スタッフのアブデルハディ・アブ・アムラさんは当初「地球のステージ」に出演の予定でしたが、45歳以下の出国許可の取得は難しく、2週間後の来日となりました。日本では、映画制作に関する研修を中心に被災地訪問などを行いました。アブデルハディ・アブ・アムラさんからのメッセージを紹介します。

親愛なる日本の皆さまへ

2015年9月5日、私はパレスチナのガザ地区から日本へ来ました。こうして日本を訪れることができ、日本人々と会って話をするのは私のかねてからの夢でした。

渡航準備の際、イスラエル政府から日本への渡航許可を得ることがかなり困難でした。というのも、イスラエルは私の住むガザ地区を厳しく包囲し、住民は誰一人として自由にガザから出ることができない状況だからです。例えば、他の街や外国で治療が必要な病人でさえも、簡単にガザから出ることはいけません。

予定より2週間遅れで私のガザ出域許可が下り、この度は、「長年苦しみの渦中にあるパレスチナ人のメッセージを届ける」という思いで日本へ来ました。

私たちパレスチナ人は1948年から今もなお、様々な苦痛を強いられて生きています。イスラエルの戦闘機や戦車が頻

繁にパレスチナ各地の住民を攻撃しており、激しい空爆も度々起こっています。これによって多くのパレスチナ人が家を失い、経済やインフラを破壊され、仕事を失い、命を失うという悲劇に見舞われており、子どもたちの心の問題も深刻です。私たちパレスチナの住民は、いかなる暴力にも反対しており、パレスチナが平和で安定した国となるように一生懸命に努力をしているというのに。

日本は多くの自然災害に見舞われ、たくさん悲劇を経験してきたと聞いています。今回宮城県を訪問し、特に2011年の津波は多くの被害を出したということを知りました。この甚大な被害の渦中ですから、日本人々は私たちパレスチナ人への支援の手を止めることはありませんでした。偉大な友人である日本のみならず、心から復興への応援メッセージを送ります。

今回私は、パレスチナの子どもたちは



アブデルハディ・アブ・アムラさん  
 パレスチナガザ地区ラファ在住。英語-アラビア語通訳。医療関係のNGOで心理社会的ケア事業の通訳として勤務。2013年12月よりパレスチナ自治区ラファ事務所プログラムコーディネーター。

め、多くのパレスチナ人の平和と希望のメッセージを届けるために日本へ来ました。私は「片手では拍手をすることはできない」という信念を持っています。私たちだけでは平和を実現することはできません。どうかこれからも、私たちのパレスチナへ思いを寄せてください。そしていつの日か、パレスチナが自由になる日が来ることを共に祈ってください。

今回は11日間の短い滞在でしたが、またこのような機会をいただけることを強く願っています。再度日本を訪れ、できる限り多くの方々に会い、直接パレスチナから平和と希望のメッセージを届けることができれば大変光栄に思います。

(2015年9月12日 宮城県名取市にて)

Q & A

玉本さん、おしえて！  
現在のシリアへの関心は高く、多くの参加者から玉本さんへの質問がありました。

Q 武装組織に捕えられることに  
対して怖くはないか？

A やりすぎ、と現地の人に  
言われるぐらい念には念を  
いれて、ミスのないよう  
気をつけている。宿泊は治  
安の良い、キリスト教徒地  
区の友人宅にホームステイ  
し、家族ぐるみで長年付き  
合ってきた人たちに助けて  
もらっている。取材は一人  
でやっているが、単独行動は  
しない。現地でないといわ  
れないことがあるので、現  
地政府や治安当局、地元  
の人などから情報収集して  
いる。

Q 危険な地域で取材すること  
に対する日本での批判をどう思  
うか？

A 悩みながらであるが、自分  
で決めて動いている。政治  
的な主張があるわけではない。  
苦しみながらも生きる  
同時代の人たちのことを、  
自分にひきつけて考えても  
ええたらと願う。今までに

Q 今後の展開、報道の役割は？  
有志連合など欧米の動きが  
ISを煽っていないか？

A 有志連合の空爆で一般人  
も殺害されているのは事  
実。だが、今後については、  
ジャーナリストたちも分か  
らない。私は、日本人の視  
点を持ちながら、伝えてい  
きたい。遠い国の出来事と  
思われるかもしれないが、  
彼らの日常生活などから、  
自分たちとの共通点を見つ  
けて、私たちがそれほど変  
わらない人たちが、このよ  
うな状況に追い込まれてい  
ると知ってもらえたら。

Q 日本の生活とのギャップはな  
いか？

A 例えば、女性はみんな、お  
しゃれや甘いものが大好き。  
そのあたりは日本の女性と

Q 中東へ行くようになったぎっ  
かけは？

A 日本に出稼ぎに来ていたパ  
キスタン人の付き合いや、  
テレビで見たクルド人問題  
などから関心を持つよう  
になった。パキスタンへ初め  
に行った時カルチャーショッ  
クを受けたが、自分の価値観  
で相手を決めつけてはいけ  
ないと思った。

Q 空爆など、兵力で人を傷つけ  
るのではない解決法はないの  
か？

A 家族を奪われるなどの恨  
み、憎しみは塊となってど  
んどん大きくなり、転がり  
出したら止められなくなる。  
「共存、許し合い」は口で  
言うほど簡単なものではない。  
まずは戦争が起きない  
ようにすることが一番大切。

Profile  
講師プロフィール



玉本 英子さん  
アジアプレス所属ジャーナリスト。1994  
年から中東の紛争地域の取材を行う。

Event Data イベントデータ

日 時：9月19日（土）  
会 場：コープこうべ生活文化センター  
参加者：75人



突然ISに襲われ、着の身着のまま岩山に逃げてきたヤズディの家族。(イラク・シンジャル山)

知ってる？ シリア、イラク地域はココ！  
※2015年6月のアジアプレスによる情報をもとに作成



第5回国際理解講座

3 Event Focus  
イスラム国の台頭

取材映像で見る  
シリア・イラク北部は今

「ごはん食べていきなさい」。  
いつもシリアの人たちは優しくもてなしてくれると、  
玉本さんは語った。  
今、混迷の続く地域の人々の暮らしは  
どうなっているのだろうか。 写真提供：玉本英子さん

イスラム教スンニ派過激組織  
イスラム国（IS）は、イラ  
ク戦争後の宗教抗争とシリア  
内戦に乗じて台頭し恐怖支配  
を拡大させてきた。ISは「神  
のために死をも恐れぬ戦士」  
として少年を含む若者たちを  
訓練し、コカインを使うこと  
で、戦闘の恐怖やけがの痛みの  
感覚を麻痺させている。人々は  
ライフラインも店も学校もない  
瓦礫の中で暮らし、子どもた  
ちは将来を不安視するようにな  
っていった。それでもなんとか  
勉強を続けたいと、電気がない  
中、夜明けとともに勉強を  
始める女子大学生もいた。今  
この町を出て行ったらもう二度  
と戻ってこれないかもしれない、  
という思いが、人々を荒れ  
果てた町にとどまらせていた。

イラク北西部には、多くのク  
ルド系少数派ヤズディ教徒が  
暮らしてきた。ヤズディ教はゾ  
ロアスター教・イスラム教・キ  
リスト教が混ざった土着信仰  
のため、イスラム武装勢力か  
らは「邪教」とみなされ、こ  
れまでも迫害を受けてきた。  
2014年8月、ISはシン  
ジャルを襲撃し多数の住民を  
殺害。数万人の住民が山へ逃  
げた。ISは女性たちを拉致  
し、戦利品・奴隷として売買



死が身近にある日常でも、子どもたちは「学校に行きたい」と話した。(シリア・コバニ)



普通の学生だった彼女も、町を守るためにクルド人民防衛隊の兵士になった。(シリア・コバニ)



IS支配地域の女性たち。ニカブという全身真っ黒の服装を強制されている。(シリア・ルメラ)



限られた食材しか手に入らないなかで、ころづしのごちそうを用意してくれた。(シリア・コバニ)

した。わずかなすきを狙って脱  
出してきたある女性は、夫を  
失いIS戦闘員と強制結婚さ  
せられた。「もう元の場所  
で、他の宗教の人たちと共存す  
ことはできない。これからは自  
分の思うことだけを信じて、自  
分のことを知らないところへ行  
きたい」と語り、ドイツへ向  
かうことを決めた。

今回の国際理解講座では、  
遠い国のことも自分の身近に引  
き寄せて考えることを小学生  
や高校生といった若い参加者  
にも伝えられたのではないだろ  
うか。

ユニセフも活動中！

ユニセフのシリア支援

2011年にシリアで武力紛争が起きて以来、約2200万人の人口のうち、これまでに20万人以上（そのうち子どもたちは1万人以上）の尊い命が失われた。シリア国内で560万人以上、周辺国にいる約200万人のシリアの子どもたちが、過酷な状況におかれている。さらに避難民を受け入れているコミュニティの多くの子どもたちにも影響が出ている。ユニセフは、子どもの権利条約に基づいて、すべての子どもの保護と利益を最優先にした迅速な手続きや対策が取られるよう要請している。



「子どもにやさしい空間」

具体的支援内容

- ・冬を乗り切るための衣類や防寒具（ウール製セーターやフリース製毛布など）の配布
- ・予防接種の実施、安全な水の提供、男女別のトイレやシャワーの設置
- ・子どもたちの心のケアや教育支援のために「子どもにやさしい空間」などを設置
- ・保護者を伴わない難民の子どもへの支援
- ・クローチアを通過する難民へ、残留地雷に関する情報の提供

情報源：日本ユニセフ協会ウェブサイト（2015年11月）

## 5 トライやる・ウィーク

10/26～10/30  
 神戸市立本山中学校：南春陽さん  
 11/5～11/6・11/9  
 神戸大学附属中等教育学校：亀井康希さん  
 11/9～11/13  
 神戸市立御影中学校：芳賀大地さん、吉田未知葉さん  
 ユニセフ基礎学習、主体性を重んじた調べ学習、街頭募金活動に向けてのポスター作り、などユニセフならではの仕事を体験しました。子どもたちからは、「今回の体験を通して世界の様子について興味がわいてきました」「自分は学校に行けている、ということに感謝できました」などの感想が届きました。



(左) ネパールについて調べ学習をする南春陽さん  
 (中) ハンド・イン・ハンド募金活動のポスターを作った亀井康希さん  
 (右) 神戸学園都市 YMCA こども園での出前学習に参加した芳賀大地さんと吉田未知葉さん

## 6 第6回国際理解講座 「テロ、世界、日本・・・」 私は捕まらない

講師 ジャーナリスト 大津 司郎さん(写真左)  
 拓殖大学国際学部教授 甲斐 信好さん(写真右)  
 日時 11月28日(土)  
 会場 コープこうべ生活文化センター  
 参加者 57人

「難民」「タイのテロ」「テロから身を守る」そして、「アフリカスタディツアー」から見える問題についてお話しいただきました。

大津——2015年の国際政治の動きを一言で表すと『難民』です。シリア難民はヨーロッパへ、ブルンジ難民はタンザニアへ、ミャンマーの少数民族ロヒンギャがバングラディッシュ経由でタイへ移動しました。人間がものすごく動き始め、国のボーダーが見えにくい時代に入っています。さらに問題は、難民キャンプの支援活動が人道産業化していることです。

甲斐——2015年8月のタイのテロ事件の容疑者はウイグル系中国人とトルコ系タイ人だとされています。タイのショッピングセンターには中東の人が溢れ、タイからは建設労働者が中東へ。私はタイという国を30年間研究してきましたが、今は「三点測量」。日本、タイ、それ以外の地域も見なければいけない時代だと痛感しています。



大津——テーマ「私は捕まらない」ですが、誘拐だけは避けたいという意味です。私が40年間アフリカや中東の紛争地で取材ができたのは、地元の人間とのネットワークや信頼関係があるからです。このグローバル時代、日本に決定的に欠けているものがセキュリティに関する危機管理などの情報ネットワークです。

甲斐——大学生のツアーでは、ケニアの難民キャンプやルワンダの除隊兵施設などさまざまな「最前線」へ行きました。少年兵との対話、子どもたちが水汲みに行く姿、世界のリアリティを体験した時から、学生たちは変わっていきました。生きるって大変だという当たり前のことを、今の時代こそ、教育の中で考えさせることが重要だと思います。

質疑応答での日本の難民の受け入れについて、甲斐さんは日本の社会はまだ、準備ができていないと指摘。大津さんは、ヨーロッパが難民を受け入れたことはリスクもあるが「未来を買ったかも」と言い、日本はもっと議論し、準備する必要があると締めくくられました。

## 2 ユニセフバザー開催

日時 10月24日(土)  
 場所 コープこうべ協同学苑(三木市)  
 主催 バザー実行委員会



恒例のユニセフバザー、今年は「コープカルチャー舞台発表会2015」の会場で行いました。収益金104,475円は全てユニセフ募金になりました。ご協力ありがとうございました。

## 3 第37回ユニセフ ハンド・イン・ハンド街頭募金活動

日時/会場 12月5日(土)/西神中央コープデイズ神戸北町・住吉・コープ仁川・伊丹  
 12月23日(水)/姫路・元町・住吉・西宮北口

「すべての子どもに5歳の誕生日を」と、師走の街角で行きかう人々に支援を呼びかけました。募金額は235,557円にのびりました。皆さまご協力ありがとうございました。



## 4 国際理解講座特別編 「イラクからの声をきいて」

報告者 「IVY」コーディネーター シーラン・シャーさん  
 日時 12月2日(水)  
 会場 コープこうべ生活文化センター  
 参加者 37人

クルド自治区在住で国際協力NGO「IVY(アイビー)」(山形市)のスタッフとして働くシーラン・シャーさんは、公立小学校建設に尽力するなど、現地のキーパーソンとして毎日奔走しています。キリスト教徒のアッシリア人でもある彼女は、難民として過ごした自身の経験、多くの子どもたちが教育の機会を奪われている現状、平和と教育の大切さについて話しました。この度の報告会では、アジアプレス所属の玉本英子さんを迎えてのトークセッションも行われ、司会及び通訳は灘高等学校生が務めました。



# Activities File 活動ファイル



兵庫県ユニセフ協会の活動履歴  
 2015年9月～12月

## 活動一覽 Activities List

### 学習会訪問一覽

月日	訪問先	対象	人数
10月16日	大阪経済大学	大学生	20
11月8日	ボーイスカウト姫路第16団	小学生～大人	16
11月11日	YMCA西神戸こども園	3～5歳	28
11月26日	福崎町立高岡小学校	小学生5～6年	28
12月6日	IKEA神戸	幼児～大人	35
12月10日	明石市立朝霧小学校	小学生6年	92
12月12日	ボーイスカウト西宮第13団	小学生～大人	20
12月22日	西宮市立段上西小学校	小学生6年	35
12月23日	ボーイスカウト神戸第52団	小学生～大人	16

### 活動一覽

\*ユニセフ紹介と支援物資の展示

月日	イベント名
9月19日	第5回国際理解講座
10月4日	平和講演会
10月10日	コープこうべ三木緑が丘組合員まつり *
10月16日	コープ甲東園組合員まつり(西宮市) *
10月24日	姫路市医師会看護専門学校文化祭 *
10月24日	ユニセフバザー(三木市)
11月7日	にしのみやふるさとウォーク2015 *
11月7日	コープこうべ第3地区ボランティア交流会 *
11月8日	2015ユニセフカップ西宮国際ハーフマラソン *
11月14日～15日	兵庫県ふれあいの祭典(淡路市) *
11月28日	第6回国際理解講座
12月2日	国際理解講座特別編
12月5日	ハンド・イン・ハンド(会場:西神中央コープデイズ神戸北町・住吉・コープ仁川・伊丹)
12月11日	三木緑が丘コープ委員会平和のひろば
12月23日	ハンド・イン・ハンド(会場:姫路・元町・住吉・西宮北口)

※トライやる・インターン受入 神戸市立本山中学校、神戸大学附属中等教育学校、神戸市立御影中学校、大阪経済大学

## 1 兵庫から岩手へ チューリップの球根を届けました

2011年から続く1口200円のチューリップ募金。今年も岩手県のおさなご幼稚園、みどり幼稚園、大槌保育園に球根を届け、園児の皆さんとボランティアと一緒に植えました。



オリジナルカード  
どうぞよろしく!

### Information

兵庫県ユニセフ協会では、ユニセフの活動を知っていただくためのポケットサイズのオリジナルカードを作りました。ユニセフは子どもたちの命と健康を守るために、保健・保護・栄養・水と衛生・教育・緊急支援の6分野の活動をしています。「ほ・ほ・え・み・き・きん」はこれらの活動の頭文字をとって覚えやすくしたものです。これからイベントや募金活動などの折に登場します。

## ユニセフ募金 Donations For Unicef

### ■ 通常募金

通信欄記載事項	振替口座	手数料
K1-280 兵庫	00190-5-31000	免除

### ■ 緊急・復興募金

	通信欄記載事項	振替口座
ネパール大地震	ネパール K1-280 兵庫	00190-5-31000
エボラ出血熱	エボラ K1-280 兵庫	00190-5-31000
シリア	シリア K1-280 兵庫	00190-5-31000
アフリカ	アフリカ K1-280 兵庫	00190-5-31000
自然災害	自然災害 K1-280 兵庫	00190-5-31000
人道支援	人道支援 K1-280 兵庫	00190-5-31000

\*共通口座名義：公益財団法人 日本ユニセフ協会  
\*手数料免除

## あなたもボランティア! Volunteer

ユニセフという言葉は知っているけれど、どんな活動をしているんだろう。世界の子どものために、私のできることはなんだろう。「できる人が できる時に できることを」活動しています。お気軽にご連絡ください。

# Wish<sup>vol.48</sup>

ユニセフ兵庫ニュース Wish

2016年(平成28年)1月発行

発行：兵庫県ユニセフ協会

住所：〒658-0081

神戸市東灘区田中町 5-3-18

コープこうべ生活文化センター 4F

電話：078-435-1605

FAX：078-451-9830

(お問い合わせは平日の 10:00 ~ 16:00)

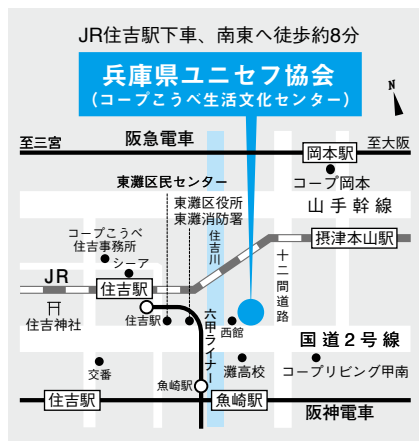
### ●最新の情報はホームページで

<http://www.office-bit.com/unicef-hyogo/>

兵庫県ユニセフ協会

検索

### ●兵庫県ユニセフ協会への案内図



## Join Us 主催イベント

### ユニセフパネル展「もったいないばあさんのワールドレポート」

日時 1月20日(水) ~ 29日(金)

会場 コープこうべ生活文化センター1F展示室

気候変動や戦争など、今地球で起きている問題は、まず一番に命を考えていたら起きなかったことばかり。「もったいない」ということばのメッセージとともに命の大切さを伝えるパネル展です。



©もったいないばあさんのワールドレポート展実行委員会

### ネパール大地震支援活動報告 & 映画上映会

日時 2月13日(土)  
13:30 ~ 14:30 上映会  
15:00 ~ 17:00 報告会

会場 コープこうべ生活文化センター 4F

共催 コープこうべ、PHD 協会、CODE

参加費 無料

上映会では、佐野由美さんのネパールでのひたむきな活動を収めたドキュメンタリー映画『With... 若き女性美術作家の生涯』を上映します。

## お申込み、お問い合わせ先

講師の都合により予定を変更する場合があります。詳細は HP をご覧ください。

### 未来を創るピースフォーラム

日時 2月22日(月) 10:00 ~ 12:30

会場 コープこうべ生活文化センター4F第3会議室

参加費 無料

出演 **アーニー・ガンダーセンさん**

原子力発電の専門家として多く技術的提言を日米で行う。

**ステイブン・リーパーさん**

2007年米国人として初めて広島平和文化センター理事長に就任。平和で豊かな暮らしを実現する「平和文化村」を開設。

### ユニセフのつどい vol.14

日時 3月6日(日) 10:30 ~ 15:00

会場 コープこうべ生活文化センター 2F

参加費 無料

内容 シャレード・ライさん (YouMe Nepal Trust) 講演「僕が故郷に学校をつくったわけ」  
わくわくワールドカフェ、ハーモニカ演奏、他



## 事務局 078-435-1605

## News お知らせ

### 本年度も国際理解講座を開催します。

4月、講師に永遠瑠 マリールイズさんを予定しています。

## Booth 出展参加

2月 7日(日)	2016ユニセフカップ神戸バレンタイン・ララン
2月 28日(日)	西宮コープファミリーフェスタ
3月 13日(日)	神戸国際交流フェア
4月	2016ユニセフカップ芦屋国際ファンラン

## 事務局からのお知らせ

兵庫県ユニセフ協会「第10回理事会、第5回評議会」を開催しました。

日時：12月14日(月)

会場：コープこうべ生活文化センター

2015年度の事業報告と決算見込みに関する件、2016年の事業計画と予算に関する件、役員に関する件、すべての議案に了承いただきました。

また、2016年度は、より多くの方々に知っていただくための広報活動とボランティアの増員に積極的に取り組みます。

## ユニセフひょうご サポーター



### 賛助会員募集中

賛助会員となって、兵庫県ユニセフ協会の活動を支援してください。お申し込み、お問い合わせは事務局までお願いいたします。